人魂火

長谷川時雨

青空文庫

これは私の父が、幼いころの気味の悪るかったことという、談話のおりにききましたことです。場処は通油町でした。祖母が目をかけてやっていた、母子二人世帯の者が、祖母の家の塀外に住んでいた、その息子の方のことです。母親という人は後家で通して来たので、名代の気丈なものだったそうですが、ある夜、もうかれこれ更けて、夏の夜でしたが、涼み台もしまおうという時分に、その後家の家の軒前へ人魂がたしかに見えたと、近所の者が騒ぎだしたのです。私の父も見たともうしました。するとその母親が、息子が留守だと思って馬鹿にすると、大変家のなかから怒ったそうで御座いました。それでその折は過てしまったのでしたが、翌朝になると祖母の処へ、その母親が顔色をかえてきて言うには、昨夜あれから間もなく、外で大変な風の音がしたと思うと、仏壇の位牌もなにもかも、みんな倒れました、それがいちどきにでしたから気になって、夜の明けるのを待兼てそこらを見ますと、息子の大切にしていた鉢植――盆栽ものが、みんな倒れている。そればかりならまだしも、大きな音がして戸へもののぶつかった窓から、仏壇へゆく途のものは、なにもかもみんな倒れているというので、母親は息子の帰らないのを、大変気にして祖母のところへ来たのですが、息子はいつも夜どまりをしつけているので、まさかとは頼みにもしていたのですが、ところが直近所の料理店へ、例も来る豆腐売りがぼんやりと荷物ももたずに来て、実は昨夜、御近所の何さんに浜町河岸で、私が夜網にゆく道で逢ったところが、なんでも一所にゆくというので出かけて、だんだん夜が更けてから、ふと気がつくと、今までそこに立って網をもっていた何さんの姿がなくなっている。どうした事かと一生懸命に呼びもしたり、探ねあかしたが、かいくれ行方がしれぬので、まったく死んだのか、それとも自分がどうかしているのかと思って、お宅まで問合せに来たと語ったのから、大騒ぎになったともうします。全く水に落て死んだので、その日死体があがったと言います。父が見に行きました時、下むきになっていましたが、丁字髷は乱れて、小肥りの肩から、守袋の銀ぐさりをかけていたということで御座います。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇　百物語怪談会」ちくま文庫、筑摩書房
　　2007（平成19）年7月10日第1刷発行
底本の親本：「怪談会」柏舎書楼
　　1909（明治42）年発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2007年11月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

人魂火

長谷川時雨

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/